

件名 まつど未来づくり会議 第2回 全体会 会議録(要旨)  
日時 平成21年11月7日(土) 14:00~18:20  
場所 松戸商工会館 5階大会議室  
出席者 まつど未来づくり会議 委員 69名(欠席 3名) 別紙  
招待者 末松裕人、田居照康、張替勝雄、織原正幸、中田京、工藤鈴子、  
(市議会議員) 桜井秀三(敬称略)  
傍聴者数 14名  
議題 第1部(第2回全体会)  
・各分科会による発表  
・各分科会へのコメント、フィードバック  
第2部(第5回分科会)  
・振り返り  
・全体に対するコメント発表  
・総括  
・閉会

#### 配付資料

1. まつど未来づくり進行用資料
2. まつど未来づくり会議発表用資料
3. まつど未来づくり会議に参加しての感想・コメント

## 会議概要

### <まつど未来づくり会議 第2回全体会>

#### 【議長あいさつ】

分科会参加の皆さんは、この3ヶ月間内容が濃くてあっという間だったと思う。今日ついに分科会を振り返って提言をまとめる段階に来たので、創造的・刺激的な会議になるようお手伝いしたい。

#### 【副議長あいさつ】

都市経営分科会に所属していたので、そちらに気持ち移っていて、自分の分科会の提言を皆さんがどう考えるか、楽しみであり心配でもある。今日はお互いの成果をフィードバックし合えればと思う。

#### 【市長あいさつ】

まず未来づくり会議の委員の皆さまには、8月の委嘱から本日まで5回の会議にご参加いただき、出席率が高く主体的な素晴らしい話し合いを経て、本日提言をまとめて頂いたことに感謝申し上げます。委員でない一般の方にも、どんな提言かぜひお聞きいただきたい。お忙しい中ご出席の議員の皆さまにもお礼申し上げます。

各分科会では、事務局の提案した方法で話し合いを行ったが、参加者の相互作用でそれぞれ異なるドラマが生まれたと聞いている。そのような過程を経て行なわれる今回の皆さまの熱い提言を受け、精一杯総合計画の策定に取り組んでいきたい。計画の成案は、来年度の半ばごろを目途とするタウンミーティングなど、節目節目でご報告したいと考えている。

本日は所用で最後までいられないが、副市長以下の後期基本計画策定会議（以下、「策定会議」と略記）メンバーは最後まで聞かせていただく。素晴らしい話し合いが今日も行われることを確信して、私のご挨拶に代えさせて頂きたい。

#### 【会議内容の確認】

大住議長より、本日の話し合いの流れを確認、その後以下の話し合いのルールを再確認した。

- ・全ての意見に価値を置く
- ・人の話をよく聴く
- ・思いや考えを全体で共有する
- ・時間厳守
- ・未来に焦点をあてる

## ●第1部（第2回全体会）

### 【チェックイン】

各グループで一言ずつ、今の正直な気持ち、気になっていることを話し合った。

### 【各分科会による発表】

配布資料2「まつど未来づくり会議発表用資料」に基づき、各分科会長が発表。

#### 《地域連携分科会》 金子雄二分科会長

##### ・分科会担当政策

政策1：市民と行政の協働を推進する

政策2：一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくる

本分科会は1人も欠席した委員がおらず、中身の濃い話し合いを行ってきた。苦労したのは、「協働」という概念に対する行政と市民との認識のずれ、市民相互の認識のずれや、人権の部分はテーマそのものが重いので苦労してまとめた。

資料のP.5にある「中間支援組織」とは、行政と活動団体の間を取り持つグループのことで、これが市内に少ないので活発にしたいという思いがある。また、市民の役割としては行政に言うだけでなく自分でやること、行政は市民の立場に立って積極的にその意見を聴くことが大事なので、強調したい。具体的な提案としては、P.9にあるサテライト・オフィス構想を、モデル地区を設定してぜひやってほしいと思う。

⇒策定会議委員のコメント

##### ○仲田・総務企画本部審議監

政策1の協働に関する部分で、行政と市民の関係だけでなく、市政協力委員などの制度ボランティアと、NPOやテーマを共有する新たなボランティア等の市民同士の連携の視点は新しいし、今後の大きな課題と認識している。それに関連する中間支援組織の問題や、ふるさと「まつど」を愛することが重要という指摘に代表される「郷土愛」についても、しっかり考えていきたい。

##### ○山室・総務企画本部企画管理室長

政策2の人権に関する部分で、宣言文にあるように相手の立場に立った行動が大事だし、そのために相手の存在を認め、対話を通して理解し合うことが重要である。また、行政の役割として「差別に対する…気づいて行動する機会」が必要との指摘があり、単なる知識の研修でなく実際に行動に移せる場の提供が必要であると感じた。人権や差別の問題は、人によって時代によって様々な

ので、常に社会情勢に敏感でいなければならないと改めて思う。

《福祉分科会》 海老原寛子分科会長

・分科会担当政策

政策 3：健康に暮らすことができるようにする

政策 4：病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする

政策 5：安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする

政策 6：市立病院として高度で良質な医療を提供する

本分科会は、20代から80代までの委員で構成され、しかも市民団体やNPOの一線で活躍されている方ばかりなので、とても勉強になったと思っている。

政策3の宣言文(P.13)で強調したいのが、「目的を持った生きがいのある暮らし」をすることが、健康につながるということ。役割分担や指標もそれを意識している。

また、政策4の宣言文(P.16)で補足したいのは、自分の人生がどうあるべきかきちんと考えるのが大事ということと、「自立」とは、自分がどんな状態でも自分のことは自分で決めるという意味であること。

政策5の宣言文では、家庭にいる人でも働く人でも、その生き方に合わせてサービスを選択できるというのがポイントで、東京から近く子育てしやすい松戸ができた時には、笑顔の子どもたちがたくさんいてほしいという想いをこめている。

そして政策6の宣言文で強調したいのは、市民は何かあればすぐ市立病院に行くのをやめてほしい、ということ。医療機関、福祉機関にはそれぞれの役割があるから、それに応じた利用を市民はしなければならないし、そのための情報提供を市が行っていくことが最重要であることで意見の一致をみた。

最後に分科会長の想いをお伝えしたい。まず、必要な時に必要なサービスを受けるためには、自分でそれを決めるためのコーディネーターが重要であることに気づかされた。また、行政も市民も協力して子どもの笑顔あふれる松戸にしたい、そのために今回分科会でできたようなつながりを大事にし、一歩ずつできることから実行しようと強く思っている。

⇒策定会議委員のコメント

○牧野・健康福祉本部企画管理室長

政策3, 4, 5の3分野に関して、共通のキーワードは「地域で生活する意識」だと感じた。交流、社会参加、ネットワークづくりというような言葉にそれが表れているが、市民の尊厳を尊重しながらコミュニティの強化を図ってい

くという方向性に、大いに共感した。

○高橋・病院事業管理局企画管理室長

政策6で特に関心をもったのが、患者の退院後の生活を地域社会が総合的にサポートする考え方。市立病院は高度・救急医療を提供するところだから、急性期を脱した患者の早期家庭復帰は大きな課題であり、そのための地域医療機関等との連携を推進している。しかし提言にあるように、患者が医療機関のみならず、社会福祉施設やNPO、ボランティア等の様々なサービスを受けられれば、さらに安心して暮らせる社会が実現すると考える。

《教育分科会》 三枝雅信分科会長

・分科会担当政策

政策7：子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする

政策8：生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

政策9：松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

本分科会は、地域の教育力向上を最大のテーマに、いかに多くの人が教育に参加するかを考えてきた。一連の会議は画期的なものだと思うし、委員の皆さんの熱い想いで自分も多くの気づきを得て、多彩な意見をまとめられたと自負している。

政策7の部分で補足したいのは、家庭と学校、地域の協力関係づくりが大事ということで共通認識が持たれた。また、教育の原点は家庭であること、市民は学校を非難するばかりでなく、そのためにできることを実行するのが大事であることを強調しておきたい。同様に、政策8のP.34でも市民の役割の部分で、市民が自主的に行動することをうたっている。

最後に具体的な提案だが、松戸の歴史を幅広くいろいろな人に知ってもらうため、それを漫画にして「マンガ松戸市」を作ってみたい。また、郷土愛を深めるためにご当地検定として、「松戸検定」を実施したらよいと思う。

⇒策定会議委員のコメント

○笠原・生涯学習本部企画管理室長

いただいた提言で印象に残ったのは、地域や市民の力が主体となるということ。学校でも、生涯学習やスポーツでも、また歴史や文化伝統を守る上でも、地域で率先してそれに取り組む人材が必要。また、教育は成果が出るまでに5年から10年という長期的なスパンが必要で、地道な活動を続けるのが重要という点には同感で、それを理解してくださっているのがありがたい。行政として、「家庭・学校・地域」の連携を深めながら各種施策に取り組むとともに、いた

だいた提言の内容をできる限り計画に反映させていきたい。

《生活環境分科会》 平賀義男分科会長

・分科会担当政策

政策 10：災害に対する不安を減らすようにする

政策 11：火災等の災害から市民生活を守る

政策 12：救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ

政策 13：環境にやさしい地域社会をつくる

政策 14：犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる

政策 15：緑と花に親しむことができるようにする

本分科会は政策テーマが6つと多く、最後の会合は6時間にわたる白熱した議論になったので、まさに熱い提言ができあがったと思う。

政策10で補足したいのが、災害時はまず自分の身は自分で守る意識が大事ということ。大災害であれば、「公助」が来るまで3日かかる場合もあるわけだから、それまでの「自助」・「共助」をどうしていくか、全市民が考える必要がある。

これと関連するが、政策11でも、昔近所の人たちが火事の時に手伝ってくれたように、「向こう三軒両隣」の助け合い意識を取り戻すべきと考える。

政策12では、P.48の「市民の役割」の部分で、できる限り主治医を持ち、地域の取り組む救命講座に参加して体験を重ねるのが大事であること、P.49「行政の役割」では、救急医の待遇を考える必要性も議論された。

政策13は、鳩山首相によるCO2の25%削減宣言以降、特に考えなければならぬ時代になってきているので、一番時間を割いた部分。

また政策15では、松戸の「緑と花」（自然）だけでなく、地球環境全体も視野に入れるべきだという意見があり、宣言文に「生物多様性」という言葉を入れたいという声もあった。

最後に、裏方の事務局の皆さまに感謝したい。今後の松戸に期待している。

⇒策定会議委員のコメント

○石田・市民環境本部企画管理室長

政策13から15までに関して、生活に身近な政策ほど「市民力」・「地域力」が大事という指摘があり、まさにその通りであると痛感した。今も昔も、行政という舞台では市民が主役でなければならないし、行政も市民とともに汗をかく必要があると思った。後期基本計画は、いわば「10年後の松戸市はこうしたい」という市民との約束であり、尊いご意見を頂いたのできちんと受け止めさせていただきます。

○臼井・消防本部企画管理室長

政策 10 から 12 までについて、火災にせよ地震等の天災にせよ、行政任せでなく「市民力」・「地域力」が大事というご意見には共感した。阪神大震災のように、まさに災害は忘れたところにやってくるわけだから、自助・共助の地域力を高めることは本当に重要と考える。救急の部分に関しては、市民の救急救命に関する意識を高めることが必要とのご指摘で、まさにその通りであり、救急システム構築の必要性についても問題意識は共有するところなので、今後検討していきたい。

《都市と産業分科会》 岩橋秀高分科会長

・分科会担当政策

政策 16：地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする

政策 17：個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにする

政策 18：ゆとりを感じるまちに住むことができるようにする

政策 19：誰もが安心してスムーズに移動できるようにする

政策 20：安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする

政策 21：いつでも安心して水道水が使えるようにする

本分科会は政策テーマが6つあって、しかも最後の分科会が2回かかったため、他の分科会より1回多く会議を行った。各委員の熱意・やる気はどこにも負けないと思っている。

まず P.61 の政策 16 の宣言文に関して、補足説明したい。本分科会はこれを考えるのにほぼ会議1回分を費やしており、6つの全政策を貫く基本的考えが表れている。それは、現状の松戸は手詰まり感があって未来への大きな壁を感じているため、新しい課題解決手法が必要という認識にたち、その解決手法が「産・学・官・民・年代間」の連携だということである。特に「年代間」の部分では、若い人の力は大事で若い人が魅力を感じない街は終りだが、松戸は街づくりに若い人の参加する部分が少ないので、そこを問題と考えている。

また、松戸には「資源」として中小企業の集積、矢切ネギなどのブランド、48万の人口、行政の人材・財政力、市民の人材資源（特に退職者）など豊富にあり、この力を統合的に発揮していくことが重要。そして、それらの資源を統合して様々な課題を解決するためのプロジェクト、しかも継続する仕組みを作ろう、ということが基本合意で、これが全政策に一貫した考え方である。

だから、たとえば P.63 の政策 17 の宣言文でも、「若者と熟年者の連携」という部分にはあくまで若者が中心、熟年はそれをサポートするという意味をこめているし、P.65 の「行政の役割」でも、肩書・実績ではなく若さを重視するた

めに、「若者活性化プロジェクト」の提案をしている。

そして、P.77 の具体的な提案の部分でも、継続的な「市民と行政連携の仕組みづくり」をうたっているし、地域・テーマごとのプロジェクト運営や、プロジェクトの核になる「シンクタンク」の創設を打ち出している。この一貫したテーマに全員の思いが凝縮されているので、ぜひ考慮していただきたい。

⇒策定会議委員のコメント

○石田・都市整備本部企画管理室長

松戸は都市基盤整備が比較的早く整い、現在維持管理が重要になってきているが、自然環境との共存が重要ということは発表全体を通底しているように感じた。コンパクトシティのような考え方も提言には含まれており、それも今後の都市整備分野には重要な考え方だと思う。また、最も大きいのは「連携」のキーワード。今回の総合計画は松戸の強みをいかして作ることになっているが、ご指摘の通り最大の強みは人材にあるのではないかと考える。48万市民のアイデアを活かせば、大きな推進力が生まれる。そのための連携の仕組みづくりが重要だと改めて感じた。

《都市経営分科会》 清水一分科会長

分科会担当政策

政策 22：市民ニーズに基づく行政経営を行う

政策 23：財源、財産を適正に管理し、配分する

本発表で強調しておきたいのが、政策 22 の宣言文 (P.81) で、「継続的な対話を経た力強い連携」の部分が重要ということ。対話を経た連携が、しっかりした政策を生み出すもとになると考えている。また P.83 の「行政の役割」の一番下に「アイデア・提案」を「公表して表彰する」とあるが、間にそれを「募集し」という意味の言葉が抜けている。最後に、松戸は 48 万都市として、政令指定都市を視野に入れた研究会を立ち上げており、それも重要なこととして具体的な提案に出している。

⇒策定会議委員のコメント

○大塚・財務本部企画管理室長

ご提言の「税以外の収入を確保する」ということに関しては、市でも数年前からホームページのバナー広告、納税通知書の封筒への広告収入等いくつか実施しているが、今後市民の皆様の具体的な提案等も頂き、少しでも収入を増やす努力をしていきたい。

○折原・人事課長

具体的な指標として、「職員の達成感」や「市民の信頼感」があったが、職員



個人や組織全体としてのモチベーションが重要なのは当然であり、これらを成果指標として取り入れられるようにしていきたい。また、行政の役割として職員が市民のためにスキルアップするという内容があったが、これは先ほどの市民の信頼を得るには大事な要素と考えており、市民や職員からの提案募集等の頂いた提言をいかしていきたいと考える。今回の分科会のように市民と職員が対話を行うことが、市民の信頼を得るには最大の要因だと思うので、このような機会を多く作っていただけるとよい。

○保坂・財政課長

いかに多くの市民に行政への関心を持ってもらうか、その仕組みづくりが大事であるということに共感をもった。ただ、財源配分に関しては自分もずっと頭を悩ませており、難しい問題だと思う。他の分科会だったが、税金をしっかりと払うのが市民の役目というありがたい提言も頂いたので、今後もお知恵を拝借していきたい。

《全体を通してのコメント》

○鈴木・総務企画本部長

8月から長期間にわたるご検討を経ての熱意ある発表に、感じ入った。まずは、今回発表という大役をお引き受けくださった分科会長にお礼申し上げる。宣言文という形で各分野の方向性を示していただき、しっかりした土台作りができたと思う。各分科会の提言についてはこれまで申し上げた通りだが、提言を今後計画策定に取り入れることをお約束する。

全体を通して最も強く感じたのは、委員の皆さまの松戸への強い愛情。子どもや孫が自慢できる松戸を作りたいという素晴らしいご提言もあったが、そういう松戸をつくる上で特に市民の力、地域の力が大切だということも教えて頂いた。私も松戸市民の一人として、皆様と手を携えて誇れる松戸を作っていきたいと考えている。最後に、皆様に厚くお礼申し上げて私の総括に代えさせて頂きたい。

○末松裕人市議会議員（市議会議長）

本日の成果を伺って、委員の皆さまがいかに話し合いに多くの時間を割いてくださったか、よくわかった。一議員、一市民として心よりお礼申し上げます。テレビ番組で取り上げて放送してほしいくらい、皆さまの熱い想いのつまった会議で、この想いが市民に広がっていけば確実に松戸は良くなると思う。

議会も、この後期基本計画を議決事項とすることを決定したので、委員の皆さまとの責任の共有を大事にして、今日の議論を参考に議会としての責任を果たしていきたいと考えている。今後とも、よろしく願いたい。

### 【各分科会へのコメント・フィードバック】

全参加者が記入した発表に対するコメントを、分科会ごとに用意した模造紙に張り出した。

### ●第2部（第5回分科会）

#### 【分科会に分かれてのグループ検討】

各分科会の議事録を参照。

#### 【全体に対してのコメント発表】

##### 《地域連携分科会》

感想を共有した結果として、好意的なコメントが多かったという意見が強かった一方、カタカナ言葉が多いという批判も頂いており、調べてみると確かにその通りという部分もあるが、想いは伝わったのではないかと考えている。皆さまにお礼申し上げたい。

##### 《福祉分科会》

頂いたコメントに対して、いくつか補足説明をしたい。

- ①政策4の「老いや死のモデル」は1つではないのでは、という意見があり、確かにそのとおりだが、どのモデルにも対応していくべきだということでもまった。
- ②カタカナ語が多いという意見もあったので、「ウィズエイジング」という言葉の説明をすると、これはそれぞれの人が自分の年齢でできることをやっていこう、年齢をそのまま受け止めていこうという意味。
- ③政策5の「自立」というのは、すぐにはできないことという指摘があったが、それぞれの人の状況にあった自立を考え、それをサポートしていくことが大事だということでも一致した。

##### 《教育分科会》

コメントを見ると、やはり教育には長い時間がかかるという内容が多く、自分たちの考えが伝わったのかなと思う。家庭・学校・地域の三者関係について、具体性が欠けるというコメントもあり、これに関してはもう少し詳しく話し合う時間があったらという感もあるが、全体的にこの場にいるすべての人が地域を大切にしていることが実感できた。

##### 《都市経営分科会》

わかりやすい言葉を使ってほしいとの意見があったが、これに関してはその通りかなと少し反省している。松戸市の経営に関してはいろいろな意見があると思うが、先ほどの策定会議メンバーの顔ぶれを見ると、全員男性で女性がない。傍聴の議員さんには女性もみえるが、市役所のこういう問題も考えていく必要がある。

#### 《生活環境分科会》

コメントの全体的な傾向としては、よくまとまっていてよかったとか、裏づけがされているものが多かったとか、好意的なものだったと思う。ただ、これは話し合いだけで終わってはだめで、ここに書いてあることを続けていける体制づくりが重要。官民連携を重視して、今後も活動していきたい。

#### 《都市と環境分科会》

具体的な提案が多いというコメントなど、好意的意見が大半だったように思う。もっとも、プロジェクト運営は市民負担が大きいのではという指摘があったが、基本的に市民のボランティアでできるものにすべきと考えている。またシンクタンクにしても、できれば1年限りでメンバーが入れ替わるようにして、理想的には全市民が関わるようにしたい。また、ワンコインバスとか面白い提案コメントもあったが、これは分科会でも検討したものの市が取り組み中ということだったので、出さなかった。いずれにせよ、この提案をどう実現するかが大事だし、市民が松戸をよくしていくという意識が重要だと思う。

#### 《あじさい》（分科会以外のグループ）

長時間議論されたご苦勞には敬意を表するが、全体的に広く浅くて具体策が少ない感は否めない。さらに提言内容を深め、誰がいつまでに何をやるという具体的工程が必要。また、「官」頼みの内容が多く、民間の主導（「官民」ではなく「民官」）という視点をもっと強く出す必要があったのではないかと。

介護や商店街の活性化等の重要な問題も、今回の提言からは抜けているので、今後検討していただきたい。

#### 【提言確定についての確認】

本日の話し合いの結果を踏まえ、事務局で修正して議長が確認したものを、市長に提出することで合意した。

#### 【今後のスケジュール】

「まつど未来づくり会議」、「子どもフォーラム」、「政策テーマ別検討チーム」

の3つの提言を受け、後期基本計画策定会議で今年度中に計画素案を策定する。今後、タウンミーティングなどの場で皆さんに進捗状況をお知らせする。計画ができた後も、市民と行政が一緒に行動を考える場づくりなどを検討していきたい。

#### 【副市長あいさつ】

まず地域連携分科会の発表を伺って、制度ボランティア（町会・自治会関係）の方と新しいNPO等のボランティアの方の、新しい出会いがあったとのことで、素晴らしいきっかけになったと思う。協働の概念は、先日幹部職員の研修を行ったばかりだが、まだ人によって捉え方が多種多様で、今後深化させ良い方向に発展するようにしたい。

福祉分科会の発表では、「どう生きるか、どう老いるか」という言葉が印象的で、哲学的な深い議論がなされたと感じた。高齢化社会では主体的に老いを生きることがとても大事であり、共感する。また「百貨店型の政策ではなく」という表現もあったが、これは自分が計画担当の職員に何度か言ってきたことと同じ。行政の計画は総花的になりがちなので、今後も大事にしていきたい考え方である。

教育分科会に関しては、教育は家庭、学校、地域が大事というキーワードで、子どもたちへの温かい視点がうれしかった。また、歴史・文化・伝統ということで考えると、先日の天皇皇后両陛下の行幸啓、千葉大園芸学部の残留が決まったことに象徴されるように、松戸は歴史的品格ある都市としての素質があるのに、他人の芝生を見すぎてそれに気づけなかったきらいがある。今後、文化的なところに目を向けていくのも重要と改めて感じた。

生活環境分科会には、6つの政策にわたる幅広い提言を頂いたが、自分がこれまで役所内で担当してきた分野だっただけに、興味深く拝聴した。温暖化対策の重要性については同感だが、時間がかかる問題でもあり、より議論を深める必要があると思う。

都市と産業分科会も、6政策にまたがる広いテーマの提言を出して下さったが、ご指摘の通り今の本市にはこの分野で手詰まり感もあり、産業というものを後ろ向きに捉えがちな部分もある。今後もっと意を用いていく必要性を感じた。

都市経営分科会には、行政の専門的な部分でご苦勞もあったと思うが、市民目線での素晴らしい提言を頂けたと思う。役所は経営が苦手であり、特に少し先を見通した議論が足りないのかなと感じた。

全体的なコメントに移る前に、先ほど幹部職員に女性がいないとのご指摘があったが、まさにその通りで、計画策定に携わる女性職員の育成は急務である

と考えている。

発表全体を通じ、皆さまの熱い議論の様子が目に浮かぶようであり、また全分科会を通して、市民に何ができるかという視点が貫かれていたことが印象に残っている。当初はこのような市民と職員がひざを交えて話すことに不安もあったが、発表を伺ってその重要性、市民と職員が新しい関わりを持つことの大切さがよくわかった。今後はこの提言を引き継いで私どもが計画を作っていくが、来年度以降もこのような取り組みを深化する方向で継続していきたい。

最後に、未来づくり会議委員の皆さま、発表を聴きに来られた市民の皆さま、最後までお聞きくださった議員の皆さまに心よりお礼を申し上げます。そして進行を務めて頂いた大住先生、中村先生へ、松戸市のためご尽力賜ったことを感謝申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

**【チェックアウト】**

本日までの感想を述べあった。

**【閉会】**

以上